

週刊新社会

発行所：新社会党
 〒101-0051 東京都千代田区神保町2-10 三辰工業ビル3F
 TEL 03 (6380) 9960 FAX 03 (6380) 9963
 振替 00140-0-149727 1ヵ月600円 郵送料 1ヵ月164円

新社会千葉

2019年3月 198号

発行：新社会党千葉県本部

千葉市中央区新千葉2-1-1 新千葉ビル401
 TEL 043-244-6865 FAX 043-244-6864
 E-mail:sinsya@lily.ocn.ne.jp
 HP URL:http://sinsya.webcrow.jp/

海発 第二原発

原電が再稼働方針を県に説明 茨城県知事は「不快感」示す

各自治体で議会決議相次ぐ

2月22日、「日本原子力発電(株)の松村社長が、東海第二原発の稼働方針を大井川茨城県知事に伝達したが、知事は不快感を示した。今後、地元自治体との判断が焦点となる見込みだが、各首長は慎重な姿勢で、同意取り付けは難航するとみられる」という内容



この、東海第二原発は千葉県から一番近くにある。福島第一原発と同じ沸騰水型で出力110万kwだが、3・11大震災のときははるかうして冷温停止となり、まさに事故寸前だった。同原発は稼働から40年たち、文字通り老朽かつ被災原発

各自治体で反対の決議

だ。この原発の周辺30kmに住む住民は96万人と日本で一番多い。現在周辺自治体は県内外の自治体と避難計画を作っているが、大事故が発生すれば避難は困難を極める。

県内の複数の市民や市民団体は東海第二原発を再稼働させないのが一番の安全と考え、昨年、千葉県内の自治体議会に40年超の運転延長や再稼働に反対する

る意見を議決してもらおうと働きかけた。その結果、市原市や千葉市などはだめだったが、我孫子市議会が3月に、6月には銚子市、成田市、多古町の各議会が反対意見を政府に送ることになった。県内には3・11以降、流山市、野田市両議会がすでに反対しており、我孫子市議会は今回で2回目の議決となった。ちなみに茨城県では44市町村議会中29市町村が反対している。

すでに「原発推進委員会」と化した原子力規制委員会は、昨年、

東海第二原発の運転延長を認めた。しかも自ら作った難燃性ケーブルへの取替えなどの「新基準」すら満たしていない。3・11以降、発電をしていない。それでも運営する日本原子力発電(株)は東京電力などの電力会社の資金で生き延びている。その資金は私たちの電気料金に転嫁されている。

県内での火力発電を断念

千葉県内では大規模石炭火力発電建設計画があるが、市原や千葉市蘇我、袖ヶ浦では採算が取れないとして次々と建設中止を発表している。

原発は、すでに採算が取れないだけでなく、いったん事故が起ると広範囲に放射能被害をもたらす、ふるさとが奪われる。使用済み核燃料の処分も不可能だ。

原発を保有する電力会社とそれに連なる政治家の「原子力ムラ」の面々の既得権維持のために県民を不安にさらしてはならない。原発廃止と自然エネルギー転換を一気に進める時期である。

小櫃川源流地域にある産業廃棄物業者、新井総合施設(本部・東京都渋谷区)の第III期増設事業を県が許可したことを巡り、1月31日に地元住民ら152人は許可の取り消しを求める行政訴訟を千葉地裁に起こした。

原告団体である「ふるさとの水を守る会」の声明によれば、「(同処分場の)第I期埋立地の漏洩事故の事故原因は究明できておらず、約7年が経過した現在でも第I期埋立地

県の君津市産廃増設許可は違法 命の水は汚さない 地元住民が提訴



を現在まで継続している。さらに、新井総合施設は、第I期と第II期の合計容量を上回る、巨大な第III期の増設(本件増設工事)の計画を打ち出したのである」と述べている。

県は、産廃処分場を建設する際、住民の生活環境保全のため「県廃棄物処理施設の設置及び維持管理に関する指導要綱」を定めている。この要綱に沿って県は平成28年2月、同社に審査指示事項を通知し、同市との事前協議を求めた。しかし、同社は同年12月7日、指示された①第I期施設の事故原因究明②防災調整池の容量③計画排水の水質④ボーリング調査の実施⑤河川協議の5項目の協議が終

わらないまま事前協議を中断、この状態で県は同日、同社から提出された増設許可申請書を受理した。

地裁前や地元で集会

千葉県裁に提訴した日、原告団は「水源地に産廃処分場はもう要らない!」の横断幕を掲げ、県庁前で氣勢を上げた。同処分場の周辺地域には「久留里の名水」に代表される上総堀の自噴井戸群があるといい、原告団の共

同代表、金森春光さんは「万が一にも漏洩事故が起きたら、35万人の水道水源である小櫃川や自噴井戸群に甚大な影響が出る可能性がある」と訴えた。

原告団は当面、3月10日(日)に地元で決起集会を行い、4月16日(火)の千葉県裁第1回公判には200名程度を集結し、同時に民事裁判も起こし、県当局の許可撤回に向け徹底して闘い抜く覚悟でいる。

【木更津発】

スペインの画家ゴヤの絵に人を喰う「サトゥールヌス」がある。天空の支配権を我が手に奪われることを恐れて5人の子を喰う古代神話の神だ。大きく見開かれた目玉に狂気が宿り鬼気迫る▼「いたいけな子の命がまた一個奪われた。浅い眠りの夜中に親の虐待に泣く子が臉にちらつき、思わずバカ!と叫ぶ無力な自分がある▼野田市のあの子の学校への訴えも、「ゆるしてください」と書いた目黒のあの子の哀訴も生きる権利を求める本能の叫び。生きる権利は最高の基本的な人権なのに、それを奪うのは神をも恐れぬサイテーの行為だ▼ゴヤには抗仏戦争で捕まった民衆を仏軍が銃殺する場面を描いた絵がある。人々の生きる権利が奪われる瞬間を切り取った迫真の画だ▼子に対する暴力も、戦争の暴力も生きる権利を奪う点では同じ。子の発するSOSが年13万件を超え、再び戦争国家の道を歩むニッポン。サイテーの国になってきた。

横芝光町

成田空港騒音問題が最大の課題

あきしか幹夫さんが二期目に挑戦

「二期目に挑戦！」を掲げて、あきしか幹夫選対が動き出しました。出馬表明が遅れましたが、後援会の皆様の温かい後押しを受けての二期目への挑戦となります。

町民の要望 議会で発言

今回、この4年間の議会でも、町民の皆様の要望について、欠かさず質問した内容を「あきしか幹夫活動レポート」として配布してきました。実績と今後4年間の課題を3点に絞った内容のチラシを作成しました。

その主な内容は、



「活動レポート」を配布するあきしかさん

①成田空港の共生・共栄を実現できる施策を求めます。

②防災、減災に努めた災害に強い町づくりに取り組みます。

③子育て支援策の充実に力を入れます。

また、そのチラシには「料金受取人払い」のハガキを印刷し、様々な要望を書き込んで返信していただくように工夫しました。

自然を大事にしながらかも、津波や河川の氾濫など、自然災害を防ぐための施策を提案します。

③子育て支援策の充実
未来を創る子どもたちをよりよい環境の中で育てていくために充実した支援策を整え、若い世代の定住を促し、人口減少にも歯止めをかける諸施策を提案します。

そのためには、まず騒音被害からの救済対策を確立してから、地域振興により、広く公平に豊かさを感じられる街づくりを目指します。

前に海、町の中央には栗山川が流れる自然豊かな横芝光町。この

には「料金受取人払い」のハガキを印刷し、様々な要望を書き込んで返信していただくように工夫しました。

安倍政権は昨年12月に大した議論もせず

に水道の民営化法案を強行採決しました。

これは、小泉政権のときに大幅な規制緩和政策が強行され、当時経産大臣だった竹中平蔵氏の主導で多くの事業が民営化されたのは記憶に新しいことです。

日本には「水と安全はタダ」という言葉があります。水道の普及

水道の民営化法案を強行 世界的な流れに逆行

率約98%（2015年度）。憲法25条の生存権で守られた、国民にとって水は何よりも

貴い「命のインフラ」なのです。その水が今巨大資本の儲けの対象にされているのです。

「20世紀は石油を奪い合う戦争だった。21世紀は水をめぐる戦争になるだろう」といわれているのです。

また、非正規雇用の無権利状態で働かされることによるサービス

の低下などで、ここ15年で世界の37か国235の都市で再び公

営に戻しているのです。しかし一度民営化したものは簡単には戻すことができません。というの

このように世界的な流れの中で、日本は逆行する政策を打ち出したのです。今後も民営化に反対していかねばなりません。

俳句

四季へのいざない



貝寄風や潮のほひの子供どち

水明

陰暦二月二十二日に、大阪四天王寺では精霊会（しょうりょうえ）が行われ、お供えの造花は難波（なにわ）の浜に吹き寄せられた貝殻で作った。このような謂れから貝を岸辺に寄せるこの頃の強い西風を貝寄風（かいよせ）と呼ぶようになった。陽暦でいえば三月中旬。春の日を全身に浴び浜辺に遊ぶ子供たち。弾けるようなその笑い声に癒される大人たちもきつというだろう。

コヒータム



北総の小江戸 「佐原」を散策

先日、テレビで佐原を紹介していた。利根川にそそぐ小野川を利用した水運の名残の掘割を中心、昔の商家の建物が数多く残っており、江戸時代の風情が楽しめ、川越とならび北総の小江戸とも例えられ、近年は外国からも観光客が訪れると

折しも、所属する労組のレクで佐原散策が募集され、早速参加することにしました。

昼ごろに佐原駅周辺で落ち合い、旧市街に向かう。水曜日は休みのお店もあるらしい。

シャッターが下りたままの商店も多く、なかには閉めっぱなしと思われれるのもちらほら。ご多分に漏れず人口減少の影響だろう。

佐原といえば伊能忠

敬と水郷と春夏の祭り。しかし、まずは腹ごしらえ、老舗のうな重は3900円、掘割沿いのフランス料理が2000円程度、今やウナギはフランス料理より高級。もちろん、ワインでフランス料理を選ぶ。ワインの後は、酒蔵を見学。タシロ一基で約6681リットル、一升瓶で3710本、値段にして742万円、毎日1合つつ飲んでも100年かかるそう。なら、2合つつ飲んだら50年、しかし、20歳で始めないと間に合わないなどと妄想する。この蔵で一番の酒は1升1万1000円。試飲してみると芳醇、得も言われぬ。高いので小瓶を買ったがおいそれとは飲めそうにない。

伊能忠敬記念館、あの時代の、あの程度の測量機器で、人生50年といわれたその50を過ぎながら、しかも、私財を投じて、ゴーンさんも爪の垢でも煎じて飲めばよい。精密、精細、几帳面な日記、ランドサットの撮影と比べても遜色ない出来栄。いまさらながら偉人に低頭。



【菅原】

【平野】